

教科「国語」シラバス

I. 学習の到達目標と評価の観点

(教科名) 国語 (科目) 国語 I	週の授業数	学科・学年・学級	使用教科書と補助教材
	3	中学 第3 学年	『国語3』(光村図書) 『入試頻出漢字＋現代文重要語彙2500』(いいずな書店) 『SCHOOL RENSEI 現代文 理解編』(育伸社) ※スタディサプリの通年講座から「中3 国語(光村図書 国語)」を視聴すると、教科書に対応した講座を視聴することが可能。
学習の到達目標	・社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。《知識・技能》・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。《思考力・判断力・表現力》・言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。《主体性・多様性・共同性》		
評価の観点	文章を理解したり表現したりするために必要な語句の量を増やすことができる。		
	さまざまな作品に触れる中で、登場人物の言動から心情を整理して作品の主題を捉え、その上で社会全体や人間一般についての理解を深めることができる。		
	それぞれの文章の構成や論理の展開のしかたを把握し、筆者の主張を読み取り、筆者の物事の見方・主張を捉えることができる。また、作者の主張を理解することにより新たな視点を獲得し、自分の考えの幅を広げることができる。		

【定期考査における観点別評価について】

年間5回の定期考査において、各回とも問題ごとに《知識・技能》《思考力・判断力・表現力》《主体性・多様性・共同性》の3観点における評価を行い、点数化し、評定算出の基本資料とする。

【点数化が難しい科目や課題について】

- A：「十分満足できる」状況と判断されるもの……………100%
- B：「おおむね満足できる」状況と判断されるもの…… 80%
- C：「努力を要する」状況と判断されるもの…………… 60%
- D：未提出、未実施…………… 0%

2. 学習計画及び評価方法等

※教育的効果を考え、事前に生徒に説明した上、扱う教材・内容を変更することもある。

	単元	学習のねらい	学習のポイント、使用教材等
Ⅰ 学期 中間 考查 まで	①小説「握手」井上ひさし ②論説「作られた『物語』を越えて」 山極寿一	【①の単元について】①登場人物の心情や人物像を表す言葉、比喩表現などに着目し、登場人物の生き方や価値観を読み取る。②時間・場所（空間）など、「現在」と「回想」の部分を読み分けるポイントとなる語句を確認し、物語の展開のしかたの効果について考える。【②の単元について】①精読する中で、具体と抽象の関係を理解する。②一般的な常識と筆者の独自の見解を比較しながら筆者の主張への理解を深める。③筆者の主張を確認した上で、主張と関連する社会の課題について思考する。	使用教材「国語3」
Ⅰ 学期 期末 考查 まで	①小説「高瀬舟」森鷗外 ②エッセイ「アラスカとの出会い」 星野道夫	【①の単元について】①現代とは異なる時代背景を推測しながら、現代にも通じる普遍的なテーマや問いについて考える。②文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。【②の単元について】①他人の回想を通して「出会い」や「人生」について自分事として捉え、自分の将来について考える。②文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見をもつことができる。	使用教材「国語3」
2 学期 中間 考查 まで	①論説「人工知能との未来」羽生善治 ②論説「人間と人工知能と創造性」松原仁 ③読書「エルサルバドルの少女ヘスース」 長倉洋海	【①②の単元について】①社会生活を支える論理性と課題解決力を身につける。②2つの文章を読み比べると同時に、批判的に読む事で社会の在り方について自分の意見を持つ。【③の単元について】①本を通して世界の状況に目を向け、生き方や社会の在り方を考える。②文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間・社会・自然などについて自分の意見を持つ。	使用教材「国語3」
2 学期 期末 考查 まで	①論説「誰かの代わりに」 鷲田清一 ②和歌の世界	【①の単元について】①抽象的な概念を表す語句を辞書で調べたり、文脈上での意味を確認したりしながら、文章を読ませる。②筆者による用語の言い換えや概念の説明のしかたに着目させる。③社会や人間に対する筆者の考えを理解した上で、自分の考えをまとめる。【②の単元について】①歴史的背景などに注意して和歌や古典を読むことを通して、その世界に親しむ。②和歌の表現の仕方について評価することができる。③言葉が持つ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、日本の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合う。	使用教材「国語3」
3 学期 期末 考查 まで	①小説「故郷」魯迅 ②随筆『温かいスープ』 今道友信 ③詩『私を束ねないで』新川和江	【①の単元について】①再会と別れの物語を通して時代や社会との関わりや人間の姿について考える。②情景や人物を描写する語句や表現に着目し、登場人物の心情や作者の意図を読み取る。【②の単元について】①筆者の考える「国際性」を捉え、国際社会における生き方について自分の考えを持つ。②当時の世界情勢や日本の置かれていた状況について想像する。【③の単元について】①朗読を通して、詩のもつイメージを捉える。②気になった言葉や表現上の特徴などを確認させる。	使用教材「国語3」

【成績評価の概要について】

(1) 学期における評価の対象

- ① 中間考査：100点（知識・技能や、思考力・表現力の評価）
- ② 期末考査：100点（知識・技能や、思考力・表現力の評価）
- ③ 漢字テストや提出物、授業への取り組み姿勢などの平常点：60点（関心・意欲・態度などの評価）と「国語Ⅱ」の平常点40点との合算で評価する。

(2) 学期における評定の算出方法

- ① 国語Ⅱと合算し、評定を算出する。
- ② 国語Ⅱも、(1)の①と②は同様であるが、③は40点である(週あたりの授業時間が国語Ⅰが3時間、国語Ⅱが2時間であるため)。
- ③ 国語Ⅰと国語Ⅱの定期考査の素点合計400点に対し、平常点合計は100点とし(素点：平常点＝8：2)、多面的評価を行う。

(3) 年度末における評定の算出方法

- ① 国語Ⅱと合算し、評定を算出する。
- ② 国語Ⅱも、(1)の①と②は同様であるが、③は40点である(週あたりの授業時間が国語Ⅰが3時間、国語Ⅱが2時間であるため)。
- ③ 国語Ⅰと国語Ⅱの定期考査の素点合計1000点に対し、平常点合計は250点とし(素点：平常点＝8：2)、多面的評価を行う。

教科「国語」シラバス

Ⅰ. 学習の到達目標と評価の観点

(教科名) 国語	週の授業数	学科・学年・学級	使用教科書と補助教材
(科目) 国語Ⅱ	2	中学 第3学年	『国語3』(光村書店) 『基礎から学ぶ 解析古典文法 三訂版』(桐原書店) 『古典文法基礎ドリル 三訂版』(河合出版) 『改訂版 ビギナース古典(古文・漢文)』(尚文出版)
学習の到達目標	① 基本的な古文や漢文を、自らの力で主体的に読み解き、本文の内容を正確に把握する力を身につけること(主体性を基本とした確かな読解力)。 ② ①に向けて、基本的な古文単語や文法事項、古典常識、文学史などの知識を習得し、それらを文脈の中で活用する力を身につけること(知識の習得と、その運用能力)。 ③ 古典世界と現代社会との対比を通して、古代人の思想や思考、生活などを自ら探究し、想像する力を高めること(探究力と想像力)。 ④ 古文や漢文の内容について、他者との対話や議論を通して、自分の考えを表現したり、他者の考えに共感したりする力を身につけること(表現力と共感力)。		
評価の観点	基本的な古文単語や文法事項、古典常識、文学史などの知識を習得し、それらを文脈の中で活用する力を身につけている。《知識・技能》		
	古典世界と現代社会との対比を通して、古代人の思想や思考、生活などを想像する力を高め、古文や漢文の内容について、他者との対話や議論を通して、自己の考えを表現する力を身につけている。《思考力・判断力・表現力》		
	基本的な古文や漢文を、自らの力で主体的に読み解き、本文の内容を正確に把握する力や、他者との対話や議論を通して、他者の考えに共感する力を身につけている。《主体性・多様性・協働性》		

【定期考査における観点別評価について】
年間5回の定期考査において、各回とも問題ごとに《知識・技能》《思考力・判断力・表現力》《主体性・多様性・共同性》の3観点における評価を行い、点数化し、評定算出の基本資料とする。

【点数化が難しい科目や課題について】
A: 「十分満足できる」状況と判断されるもの……………100%
B: 「おおむね満足できる」状況と判断されるもの……… 80%
C: 「努力を要する」状況と判断されるもの…………… 60%
D: 未提出、未実施…………… 0%

2. 学習計画及び評価方法等

※教育的効果を考え、事前に生徒に説明した上、扱う教材・内容を変更することもある。

	単元	学習のねらい	学習のポイント、使用教材等
Ⅰ 学期 中間 考 査 ま で	① 助動詞〔き・けり・ず〕の習得（『解析』66.67.85頁） ② 古典作品を読む（作品未定）。 ③ 漢文訓読	① 助動詞〔き・けり・ず〕についての知識を定着させる。 ② 古典作品を読み、文法事項や古典単語などに注意してゆく。また、その文章から窺い知ることのできる当時の社会や文化などを理解することで、現代とは異なる世界観を体感する。 ③ 返り点を復習しつつ、訓読の練習をする。また、歴史的仮名遣の読み方に注意しながら、正確に音読できるようにする。	* 助動詞の活用や文法的意味などを覚える。さらに、その知識を活かして例文等の理解へと及ぶ。 * 古典作品の読解を通して、文法を学ぶことの意義を自ら納得してゆく。 * 使用教材 『基礎から学ぶ 解析古典文法 三訂版』 『ビギナーズ古典』
Ⅰ 学期 期 末 考 査 ま で	① 助動詞〔つ・ぬ・たり・り〕の習得（『解析』68.69.70頁） ② 古典作品を読む（作品未定）。 ③ 漢文訓読	① 助動詞〔つ・ぬ・たり・り〕のについての知識を定着させる。 ② 古典作品を読み、文法事項や古典単語などに注意してゆく。また、その文章から窺い知ることのできる当時の社会や文化などを理解することで、現代とは異なる世界観を体感する。 ③ 返り点を復習しつつ、訓読の練習をする。	* 助動詞の活用や文法的意味などを覚える。さらに、その知識を活かして例文等の理解へと及ぶ。 * 古典作品の読解を通して、文法を学ぶことの意義を自ら納得してゆく。 * 使用教材 『基礎から学ぶ 解析古典文法 三訂版』 『ビギナーズ古典』
Ⅱ 学期 中 間 考 査 ま で	① 助動詞〔む・（むず）・じ〕の習得。（『解析』74.86頁） ② 古典作品を読む（作品未定）。 ③ 漢文訓読	① 助動詞〔む・（むず）・じ〕のについての知識を定着させる。 ② 古典作品を読み、文法事項や古典単語などに注意してゆく。また、その文章から窺い知ることのできる当時の社会や文化などを理解することで、現代とは異なる世界観を体感する。 ③ 返り点を復習しつつ、訓読の練習をする。また、歴史的仮名遣の読み方に注意しながら、正確に音読できるようにする。	* 助動詞の活用や文法的意味などを覚える。さらに、その知識を活かして例文等の理解へと及ぶ。 * 古典作品の読解を通して、文法を学ぶことの意義を自ら納得してゆく。 * 使用教材 『基礎から学ぶ 解析古典文法 三訂版』 『ビギナーズ古典』
Ⅱ 学期 期 末 考 査 ま で	① 助動詞〔る/らる・す/さす/しむ〕の習得。（『解析』62-65頁） ② 古典作品を読む（作品未定）。 ③ 漢文訓読	① 助動詞〔る/らる・す/さす/しむ〕のについての知識を定着させる。 ② 古典作品を読み、文法事項や古典単語などに注意してゆく。また、その文章から窺い知ることのできる当時の社会や文化などを理解することで、現代とは異なる世界観を体感する。 ③ 返り点を復習しつつ、訓読の練習をする。また、歴史的仮名遣の読み方に注意しながら、正確に音読できるようにする。	* 助動詞の活用や文法的意味などを覚える。さらに、その知識を活かして例文等の理解へと及ぶ。 * 古典作品の読解を通して、文法を学ぶことの意義を自ら納得してゆく。 * 使用教材 『基礎から学ぶ 解析古典文法 三訂版』 『ビギナーズ古典』
Ⅲ 学期 期 末 考 査 ま で	① 古典作品を読む（作品未定）。 ② 古典作品（中国古代文学）を読む（作品未定）。	① 本文を読解し、内容説明ができるようにする。 ② これまでの復習等をいかし、漢文訓読を円滑におこなうことができるようにする。また、ある程度のまとまった文章を読み、中国の古代文学にも触れる。	* これまで習得した文法事項を活かしなが、文の構造への理解を深める。また、古代の価値観にも触れることで、古典世界への探究心を養成する。 * 中国の古代文学に触れ、時代も場所も異なる人々の存在を考える。また、漢文を訓読するにあたり、古典文法の習得が必須であることを自覚する。 * 使用教材 『基礎から学ぶ 解析古典文法 三訂版』 『ビギナーズ古典』

【成績評価の概要について】
(1) Ⅰ学期における評価の対象（国語Ⅱ） ① 中間考査：100点（知識・技能や、思考力・表現力の評価） ② 期末考査：100点（知識・技能や、思考力・表現力の評価） ③ 授業内外の課題や授業への取り組み姿勢などの平常点：40点（関心・意欲・態度などの評価） (2) 学期評定の算出方法 ① 国語Ⅰと合算し、評定を算出する。 ② 国語Ⅰも、(1)の①と②は同様であるが、③は60点である(週あたりの授業時間が国語Ⅰが3時間、国語Ⅱが2時間であるため)。 ③ 国語Ⅰと国語Ⅱの定期考査の素点合計400点に対し、平常点合計は100点とし(素点：平常点＝8：2)、多面的評価を行う。 (3) 年度末評定の算出方法 ① 国語Ⅰと合算し、評定を算出する。 ② 国語Ⅰも、(1)の①と②は同様であるが、③は60点である(週あたりの授業時間が国語Ⅰが3時間、国語Ⅱが2時間であるため)。 ③ 国語Ⅰと国語Ⅱの定期考査の素点合計1000点に対し、平常点合計は250点とし(素点：平常点＝8：2)、多面的評価を行う。